

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0章 算数から数学へ 1章 数の世界をひろげよう (正負の数)	28	<ul style="list-style-type: none"> 素因数分解の一意的性を理解し、自然数を素因数分解することができる。 正負の数の必要性と意味を理解する。 正負の数の必要性と意味を理解する。 正負の数の大小や乗法とのちがいを、正負の数を用いて表すことができる。 正負の数を数直線上に表すことができる。また、数直線を使って正負の数の大小や乗法とのちがいを表すことができる。 絶対値の意味を理解し、絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係性を不等号を使って表すことができる。 正負の数の加減乗除の計算ができる。 正負の数では、交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、くふうして計算することができる。 正負の数の加法法則を利用して計算ができる。 正負の数を用いて、身長や平均などくふうして求める方法を考え、説明することができる。 身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然数を素因数分解することができる。 正負の数を数直線上に表したり、正負の数の大小や乗法とのちがいを表したりすることができる。 絶対値の意味を理解し、絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係性を不等号を使って表すことができる。 正負の数の加減乗除の計算ができる。 正負の数では、交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、くふうして計算することができる。 正負の数の加法法則を利用して計算ができる。 正負の数を用いて、身長や平均などくふうして求める方法を考え、説明することができる。 身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 九九表の並びがいろいろな規則を見つめられることができる。 正負の数を用いて表すことと通して、事象や性質について、よく考察することができる。 九九表の意味の理解を深め、数の負の数にまで拡張することができる。 加法・減法や乗法・除法の原理を、数直線を用いて考えることができる。 減法がいつでもできるようなことを、計算の可能性が拡大する点で見ることができる。 加法と減法、乗法と除法を、それぞれ統一することができる。 正負の数の計算を能率的に行う方法を考えることができる。 平均や平均など、正負の数の計算を利用する場面を通して、そのよさを説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然数だけでなく数の数で表すことにより、整数の性質を見いだすことができる。 身のまわりの事象を、正負の数、負の数の見方から考えようとする。 正負の数を用いることにより、たがいに反対の性質をもつ量を統一して表すことができるようになる。 加法と減法を統一して表すことができる。 九九表の並びがいろいろな規則を見つめられることができる。 正負の数を用いて表すことと通して、事象や性質について、よく考察することができる。 九九表の意味の理解を深め、数の負の数にまで拡張することができる。 加法・減法や乗法・除法の原理を、数直線を用いて考えることができる。 減法がいつでもできるようなことを、計算の可能性が拡大する点で見ることができる。 加法と減法、乗法と除法を、それぞれ統一することができる。 正負の数の計算を能率的に行う方法を考えることができる。 平均や平均など、正負の数の計算を利用する場面を通して、そのよさを説明することができる。
2章 数学のこぼれをみにつけよう (文字式)	18	<ul style="list-style-type: none"> 正文字を用いた場合の本数の求め方を自分なりの方法で考え、式や図を使って説明することができる。 文字を用いることの必要性と意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。 文字式の積や乗算の表し方にたがって、式を表すことができる。 式の意味を理解し、円周の長さや円の面積を、文字を使った式で表すことができる。 文字式を数値代入して式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。 式の値を求める式から、その求め方を組み取り、図を使って説明することができる。 積と因数の意味を理解し、文字の部分が同じ積を1つの項にまとめることができる。 1次式の加減乗除の計算ができる。 等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が数量の関係性を組み取り取りすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた場合の本数の求め方を自分なりの方法で考え、式や図を使って説明することができる。 文字を用いることの必要性と意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。 文字式の積や乗算の表し方にたがって、式を表すことができる。 式の意味を理解し、円周の長さや円の面積を、文字を使った式で表すことができる。 文字式を数値代入して式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。 式の値を求める式から、その求め方を組み取り、図を使って説明することができる。 積と因数の意味を理解し、文字の部分が同じ積を1つの項にまとめることができる。 1次式の加減乗除の計算ができる。 等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が数量の関係性を組み取り取りすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いて数量を一般化にかつ簡潔に表現したり、文字式の意味を積み取り取りすることができる。 文字式から、それによって具体的な数量を積み取り取りすることができる。 文字式を用いて式や式の値を求めることができる。 1次式の加減乗除の計算ができる。 1次式の積や乗算の表し方にたがって、式を表すことができる。 式の意味を理解し、円周の長さや円の面積を、文字を使った式で表すことができる。 文字式を数値代入して式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。 式の値を求める式から、その求め方を組み取り、図を使って説明することができる。 積と因数の意味を理解し、文字の部分が同じ積を1つの項にまとめることができる。 1次式の加減乗除の計算ができる。 等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が数量の関係性を組み取り取りすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いて考えることとよき必要性に基づき、いろいろな数量を文字を用いて表すようとする。 式や図を用いて表すことと通して、事象や性質について、よく考察することができる。 九九表の意味の理解を深め、数の負の数にまで拡張することができる。 加法・減法や乗法・除法の原理を、数直線を用いて考えることができる。 減法がいつでもできるようなことを、計算の可能性が拡大する点で見ることができる。 加法と減法、乗法と除法を、それぞれ統一することができる。 正負の数の計算を能率的に行う方法を考えることができる。 平均や平均など、正負の数の計算を利用する場面を通して、そのよさを説明することができる。
3章 未知の数の求め方を考えよう (方程式)	14	<ul style="list-style-type: none"> 求めたい数量がある問題、既習の内容を活用して解決することを通して、方程式の必要性を理解する。 方程式と式の関係の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めたり、等式の性質を使って方程式を解くことができる。 移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。 かっこをくむ方法や、係数に小数、分数をふくむ方程式を解くことができる。また、1次方程式を解く手順を理解する。 具体的な問題を、方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。 因数と代金に関する問題、通分に関する問題、通分に関する問題を、それぞれ方程式を利用して解決することができる。また、求めた解が問題に合っているかどうかを考え、説明することができる。 比の意味や性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の間の関係を等式で表すことができる。 等式の性質を利用して方程式の解き方の手順を働くことができる。 等式の性質や移項の考えを使って方程式を解くことができる。 いろいろな形の方程式を解くことができる。 1次方程式の解き方を説明することができる。 比の意味や性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を見いだすことができる。 等式の性質を利用して方程式の解き方の手順を働くことができる。 方程式の形に応じた解法の手順を、見立てを立てて考えることができる。 文字式を、操作や操作の結果の両方を用いて表すことができる。 問題解決の場面、数量の間の関係を表す方程式などを利用して表す場合、方程式を用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を等式で表すようとする。 方程式が1変数の非等式で解くこととよきに基づき、方程式を解くことができる。 具体的な問題を、方程式を活用して解くようとする。
4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう(比例と反比例)	22	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 関数の意味や性質の理解し、関数の意味や性質を不等号を使って表すことができる。また、2つの数量の間に比例の関係があるかどうかを判断することができる。 比例と反比例の関係を理解し、比例と反比例の関係を式で表すことができる。 比例と反比例の関係を、1組のx, yの値から、比例の式を求めることができる。 比例の意味や点の位置の理解し、点の座標を平面の点で表すことができる。 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解する。また、比例のグラフの傾きを理解する。 比例について、傾きが増加するものの増加の速度の異なることを理解する。また、比例のグラフの傾きを、傾きを比較することができる。 比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、比例のグラフから式を求めることができる。 傾きが反比例するとき、x, yの値から、反比例の式を求めることができる。 反比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、異なる2つの直線であることを理解する。 反比例のグラフの傾きを理解する。また、反比例のグラフをかくことができる。 反比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、反比例のグラフから式を求めることができる。 身のまわりの問題を比例と反比例を利用して解決することができる。また、$a=b$で表される関係において、それらの数量の間の関係を考えることができる。 身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 比例と反比例の関係を式で表すことができる。 文字を数値として代入し、関数の値を求めたり、関数の値を不等号を使って表すことができる。 平面上の点の座標を求めたり、2つの数の数直線上の点で表すことができる。 具体的な数量の問題を比例と反比例の考え方や比例のグラフを利用して解くことができる。 関数の意味や性質の理解し、関数の意味や性質を不等号を使って表すことができる。また、2つの数量の間に比例の関係があるかどうかを判断することができる。 比例と反比例の関係を理解し、比例と反比例の関係を式で表すことができる。 比例と反比例の関係を、1組のx, yの値から、比例の式を求めることができる。 比例の意味や点の位置の理解し、点の座標を平面の点で表すことができる。 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解する。また、比例のグラフの傾きを理解する。 比例について、傾きが増加するものの増加の速度の異なることを理解する。また、比例のグラフの傾きを、傾きを比較することができる。 比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、比例のグラフから式を求めることができる。 傾きが反比例するとき、x, yの値から、反比例の式を求めることができる。 反比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、異なる2つの直線であることを理解する。 反比例のグラフの傾きを理解する。また、反比例のグラフをかくことができる。 反比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、反比例のグラフから式を求めることができる。 身のまわりの問題を比例と反比例を利用して解決することができる。また、$a=b$で表される関係において、それらの数量の間の関係を考えることができる。 身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの事象の2つの量の関係を、変化や対称に注目して調べ、比例と反比例の関係を理解することができる。 比例と反比例の関係を式で表すことができる。 比例と反比例の関係を、1組のx, yの値から、比例の式を求めることができる。 比例の意味や点の位置の理解し、点の座標を平面の点で表すことができる。 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解する。また、比例のグラフの傾きを理解する。 比例について、傾きが増加するものの増加の速度の異なることを理解する。また、比例のグラフの傾きを、傾きを比較することができる。 比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、比例のグラフから式を求めることができる。 傾きが反比例するとき、x, yの値から、反比例の式を求めることができる。 反比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、異なる2つの直線であることを理解する。 反比例のグラフの傾きを理解する。また、反比例のグラフをかくことができる。 反比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、反比例のグラフから式を求めることができる。 身のまわりの問題を比例と反比例を利用して解決することができる。また、$a=b$で表される関係において、それらの数量の間の関係を考えることができる。 身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの事象の2つの量の関係を、変化や対称に注目して調べ、比例と反比例の関係を理解することができる。 比例と反比例の関係を式で表すことができる。 比例と反比例の関係を、1組のx, yの値から、比例の式を求めることができる。 比例の意味や点の位置の理解し、点の座標を平面の点で表すことができる。 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解する。また、比例のグラフの傾きを理解する。 比例について、傾きが増加するものの増加の速度の異なることを理解する。また、比例のグラフの傾きを、傾きを比較することができる。 比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、比例のグラフから式を求めることができる。 傾きが反比例するとき、x, yの値から、反比例の式を求めることができる。 反比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、異なる2つの直線であることを理解する。 反比例のグラフの傾きを理解する。また、反比例のグラフをかくことができる。 反比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、反比例のグラフから式を求めることができる。 身のまわりの問題を比例と反比例を利用して解決することができる。また、$a=b$で表される関係において、それらの数量の間の関係を考えることができる。 身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。
5章 平面図形の見方をひろげよう(平面図形)	17	<ul style="list-style-type: none"> 平行移動、回転移動、対称移動の意味とその性質を理解する。 2つの合同な図形の関係や移動の見方から、説明することができる。 合同な図形を証明し、その性質を理解する。また、合同な図形を証明し、その性質を理解する。 基本的な作図の方法を学ぶために、作図の目的や性質を理解する。 合同、垂直二等分線、角の二等分線を用いて作図する方法を理解し、作図することができる。 基本的な作図を利用して、図の線や点の位置関係や条件をみたす図形を作図することができる。 基本的な作図を利用して、図の線や点の位置関係や条件をみたす図形を作図することができる。 身のまわりにあるものや図を円とみなして、その円を等分してできるおうぎ形に着目し、弧の長さや面積が中心角に比例することを理解する。 おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行移動、回転移動、対称移動の意味とその性質を理解する。 2つの合同な図形の関係や移動の見方から、説明することができる。 合同な図形を証明し、その性質を理解する。また、合同な図形を証明し、その性質を理解する。 基本的な作図の方法を学ぶために、作図の目的や性質を理解する。 合同、垂直二等分線、角の二等分線を用いて作図する方法を理解し、作図することができる。 基本的な作図を利用して、図の線や点の位置関係や条件をみたす図形を作図することができる。 基本的な作図を利用して、図の線や点の位置関係や条件をみたす図形を作図することができる。 身のまわりにあるものや図を円とみなして、その円を等分してできるおうぎ形に着目し、弧の長さや面積が中心角に比例することを理解する。 おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な図形や対称性の観点から見直し、その性質を考察することができる。 作図の目的や性質を理解し、その性質を利用して図形を決定する要素に着目するなどして、その手順を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの事象から、平行移動や対称移動の性質を見いだすことができる。 合同な図形を証明し、その性質を理解する。また、合同な図形を証明し、その性質を理解する。 基本的な作図の方法を学ぶために、作図の目的や性質を理解する。 合同、垂直二等分線、角の二等分線を用いて作図する方法を理解し、作図することができる。 基本的な作図を利用して、図の線や点の位置関係や条件をみたす図形を作図することができる。 基本的な作図を利用して、図の線や点の位置関係や条件をみたす図形を作図することができる。 身のまわりにあるものや図を円とみなして、その円を等分してできるおうぎ形に着目し、弧の長さや面積が中心角に比例することを理解する。 おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。
6章 立体の見方をひろげよう(空間図形)	18	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりにあるものや立体を見直し、それらの立体をいろいろな見方から分類することができる。 多面体の意味を理解する。また、角錐や円錐の意味とそれらの特徴を理解する。 空間内にある平面が1つに決まる条件を理解する。 空間内にある平面が2つに決まる条件を理解する。 空間内にある平面が3つに決まる条件を理解する。 角錐や円錐、円錐、球などを、平面図形の移動によってできた立体とみなすことができる。 立体や面体の展開図とその特徴を理解する。 円錐の展開図で、側面にいるおうぎ形の中心角を求め、展開図をかくことができる。 投影図の意味や性質を理解し、立体の投影図から、その立体を組み取り、投影図と立体との対応関係の長さや面積を求め、説明し、図に表すことができる。 立体や面体の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 角錐や円錐、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな立体について、面の数、頂点の数などを調べることができる。 空間図形から平行、垂直、なじの位置の要素を取り出し、記号を使って表すことができる。 空間図形から平行、垂直、なじの位置の要素を取り出し、記号を使って表すことができる。 線の性質や表面積を求めることができる。 空間図形の展開図によって構成される立体を表現することができる。 見取り図や展開図を用いて空間図形を表現し、見取り図や展開図から空間図形の性質や特徴を調べることができる。 角錐、角錐、円錐、球などの立体を平面図形の移動によってできた立体とみなすことができる。 おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 立体や面体の展開図とその特徴を理解する。 円錐の展開図で、側面にいるおうぎ形の中心角を求め、展開図をかくことができる。 投影図の意味や性質を理解し、立体の投影図から、その立体を組み取り、投影図と立体との対応関係の長さや面積を求め、説明し、図に表すことができる。 立体や面体の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 角錐や円錐、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりにある立体や面体の位置関係について分類・整理し、その特徴を見いだすことができる。 空間内における平行や垂直などの位置関係について分類・整理し、その特徴を見いだすことができる。 線分や平面の運動によって面や立体が構成されているという見方がある。 見取り図や展開図を通して空間図形を考察することができる。 立体を投影図を使って平面上に表すことができる。 立体を平面上に投影することによって、立体の体積の求め方を考えることができる。 おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することを理解し、それらを求めることができる。 立体や面体の展開図とその特徴を理解する。 円錐の展開図で、側面にいるおうぎ形の中心角を求め、展開図をかくことができる。 投影図の意味や性質を理解し、立体の投影図から、その立体を組み取り、投影図と立体との対応関係の長さや面積を求め、説明し、図に表すことができる。 立体や面体の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 角錐や円錐、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな立体や面体の位置関係について分類・整理し、その特徴を見いだすことができる。 空間内における平行や垂直などの位置関係について分類・整理し、その特徴を見いだすことができる。 線分や平面の運動によって面や立体が構成されているという見方がある。 見取り図や展開図を通して空間図形を考察することができる。 立体を投影図を使って平面上に表すことができる。 立体を平面上に投影することによって、立体の体積の求め方を考えることができる。 おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することを理解し、それらを求めることができる。 立体や面体の展開図とその特徴を理解する。 円錐の展開図で、側面にいるおうぎ形の中心角を求め、展開図をかくことができる。 投影図の意味や性質を理解し、立体の投影図から、その立体を組み取り、投影図と立体との対応関係の長さや面積を求め、説明し、図に表すことができる。 立体や面体の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 角錐や円錐、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。
7章 データを活用して判断しよう (データの分析と活用)	10	<ul style="list-style-type: none"> データを度数分布表やヒストグラムにし、分布の特徴を読み取り、説明することができる。 相対度数の必要性と意味を理解し、2つのデータを相対度数の折れ線に表して、分布を比較し、説明することができる。 代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り、説明することができる。 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に判断することができる。 不確定な事象の起こりやすさ、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。 多数の観測や多数回の試行の結果を基として、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相対度数の必要性と意味を理解し、求めることができる。 相対度数を求めることができる。 度数分布表や相対度数の折れ線に表して、分布を比較し、説明することができる。 代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り、説明することができる。 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に判断することができる。 不確定な事象の起こりやすさ、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。 多数の観測や多数回の試行の結果を基として、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 度数分布表やヒストグラム、相対度数の表を基として、資料の特徴を読み取り、説明することができる。 資料の傾向が異なる2つの資料について相対度数から、特徴を読み取り、説明することができる。 範囲や代表値を用いて資料の特徴や違いを説明することができる。 目的に応じて資料をいろいろな観点から整理し、それによって自分の考えをまとめ、説明することができる。 2つの代表値を用いることが適切であるかを、目的や資料のよさから判断することができる。 相対度数の必要性と意味を理解し、求めることができる。 相対度数を求めることができる。 度数分布表や相対度数の折れ線に表して、分布を比較し、説明することができる。 代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り、説明することができる。 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に判断することができる。 不確定な事象の起こりやすさ、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。 多数の観測や多数回の試行の結果を基として、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の特徴を調べるために、資料や度数分布表やヒストグラム、相対度数の表などに整理しようとする。 度数分布表やヒストグラム、相対度数の表から、資料の特徴を読み取り、説明しようとする。 資料の傾向が異なる2つの資料の相対度数に着目し、その特徴や違いを説明しようとする。 範囲や代表値を用いて、資料の特徴や違いを説明しようとする。 目的に応じて資料をいろいろな観点から整理し、それによって自分の考えをまとめ、説明しようとする。 2つの代表値を用いることが適切であるかを、目的や資料のよさから判断しようとする。 相対度数の必要性と意味を理解し、求めようとする。 相対度数を求めようとする。 度数分布表や相対度数の折れ線に表して、分布を比較し、説明しようとする。 代表値や範囲を用いて、資料の傾向を読み取り、説明しようとする。 目的に応じて資料をいろいろな観点から整理し、それによって自分の考えをまとめ、説明しようとする。 多数の観測や多数回の試行の結果を基として、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明しようとする。

